

平成 17 年度第 2 回研究会 議事録

日時 : 平成 17 年 6 月 22 日(水) 15:30~17:00

場所 : 愛知工業大学 本山キャンパス 3 階 大学院講義室

講師 : 正木和明教授 (愛知工業大学)

出席者 : 青木 (愛工大), 小塩 (名大), 深田 (金沢大) 渡辺 (名城大), 鈴木 (愛工大), 山根 (石原工業), 大岩, 園部 (JIP) 中川 (瀧上), 土橋 (横河), 能登 (JFE), 吉田 (川田), 桜井 (東京鐵骨), 高橋 (日本車両), 播金, 山田, 長屋, 古田土, 森田 (トピー), 嘉津 (川田ｸﾞﾙｰﾌﾟ), 鷲見 (八千代 E) 加藤, 佐藤 (中日本建設 C), 鎌田 (東京建設 C), 原田 (創建), 小澤 (建設技研), 坂井田 (帝国建設 C), 林, 山田 (協和 C), 渡辺 (利工外 C), 熊沢

30 名(敬称略)

1. 定期研究会 (鈴木 研究会担当幹事)

講演題目「地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発」

講演者 愛知工業大学 正木和明教授

講演内容

愛知工業大学にこのほど開設された地域防災研究センターの紹介をして頂いた。

企業防災は周辺の地域社会の防災, 早期復興と密接に関係するという観点のもと, 観測と防災システムを 2 本の柱として設立された地域防災研究センターは, 大規模構造物に被害を与える長周期地震動の体験施設, 観測システム, 気象庁の地震速報より, 地震の到達時刻, 震度を予測する企業防災システムといった設備を有している。

特に現在 30 社の企業が参加している企業防災システムは, 24 時間リアルタイムで地震情報を発信し, 地震発生後, 地震波が到達する前に地震情報を知らせるシステムであり, このシステムを効果的に運用すれば, あらゆる分野の企業で震災の被害を少なくすることに役立つといえる。

講演内容は直接構造に関わるものではなかったが, 参加者の防災に対する関心が強く, 企業防災システムに対して地震情報の精度等に関する活発な質疑が行われた。

以上//